

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所 の特徴	地域との繋がりを大切にし、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける事をお手伝いしています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護千手	管理者	廣川 丈人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	2人	1人	1人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の各項目を担当制にし、定期的に評価を行い、具体的な取り組みや方向性を決めていく。	今年度は新人職員もおりましたので、職員一同事業所自己評価の内容の振り返りに努めました。 出来ていない部分も見える作業になるので担当をローテーションし、理解の浸透に努めていきます。	自己・外部評価が活かされて、より良い取り組みに繋がっていることを実感しています。 タブレットを活用して情報共有をしているため、利用者様の記録も簡単に入力できると思います。初期の支援は情報が少ないですが、職員一人一人の気づきを入力することで、多くの情報が集まるため効率が良いと思いました。	事業所自己評価項目の担当制を更新し項目理解を深める。 特にタブレットを活用し、「1初期支援」、「2～したいの実現」、「3日常生活の支援」についての理解を深められるように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境	フロアの壁を使用して季節に応じた設えを行う。 センターへ入りやすい環境、声を掛けやすい環境を見直し、整備する。	フロアの壁にマスキングテープアートを取り入れたことから始まり、「窓」を作成し季節を表現しております。 ご利用者の作品も掲示し、話の種にもなっております。 外部に向けての設えが出来ていなかったもので課題にしたいと思います。	地域交流スペースや玄関前廊下に季節の飾りや利用者の作品等が飾られており和みます。 施設特有のにおいもなく清潔感があると思います。 1年を通してイベントを行い、季節を感じられていると思います。	ご利用者と一緒に季節を感じる設えを作成し掲示していく。 外部の方にも情報や取り組みが伝わるような設えや立て看板の設置を継続する。
C. 事業所と地域のかかわり	センター全体として立て看板、広報誌の作成・配布の継続を行う。 民生委員、コミュニティセンターとの連携を図り、地域との関わりを持てる機会を年10回程実施する。	立て看板を定期的に作成し掲示してきました。天候の関係で正面玄関内での掲示が多くなり、地域の皆様の目に入りにくい状況でした。ある程度の天候にも対応できる方法も検討します。 地域との関りについて、民児協ミニ講座・こよし会を合わせて10回を超えることが出来る状況ですので継続していきます。	民児協・こよし会の出席者にはセンターの理解が深まり職員の方々が身近になっていることを出席者を通して感じることが出来ます。 民児協のミニ講座、こよし会の開催などを通じてサポートセンターの周知が以前よりも出来ていると感じます。近くにお住まいの方はサポートセンターのお世話になりたいという方もいられます。	全職員が参加できるように年10回以上の開催を継続する。 定期的にアンケートを取り、開催内容や方向性の確認を行い、理解の深まる会を提供する。

D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	感染状況も考慮し、季節を感じるよう近隣への外出や送迎時のコースを調整していく。地域の行事にも参加し、ご利用者と地域の繋がりを図る。	天候を見て花見やドライブに出かける機会を設けました。 今年度は千手3丁目のお神輿が来てくださり、ご利用者の皆様も喜ばれておりました。次年度は担ぎ手としても参加できればと考えております。	運営推進会議で利用者様の様子を写真で見せていただき良い表情で楽しく過ごされている様子が分かりました。	千手地区（町内、コミュニティセンター）で開催される行事にご利用者と参加する。 近隣の散歩、ドライブを行い、ご利用者の楽しいな時間を作っていく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	より分かりやすく説明し意見を聴取しやすいように会議内で使用する資料を写真などを交え作成を工夫する。介護職員の参加も調整し、小規模と地域の関わりに繋げる。	運営推進会議資料に活動風景を載せることを継続してきました。 雰囲気や表情などが見えるので良いとお言葉もいただけておりますので今後も継続していきます。 運営推進会議に職員も参加させていただき、職員からも委員の皆様の声を聞き、繋がりを持つ機会となり良かったと声が聞かれております。次年度は参加職員の声で伝えられる部分も検討していきたいと考えております。	写真やエピソードを交えての説明などで利用されている皆さんの様子や支援の状況を知ることが出来ています。 利用者、家族の方の声を直接聞くことができ、和やかな会議だと思います。 写真があると活動が分かりやすいです。当日の資料について事前に配布していただけると一読できると思います。 利用者さんの写真をいつも楽しみにしております。 もし機会がありましたら職員さんからも「日々の業務で気を付けていること」、「今日の訪問であったほっこり話」、「事業所イチ○○なケアが得意」など聞けたらいいと思います。	運営推進会議に職員も参加し、活動報告部分の紹介について参加職員より報告を行い、写真資料に加え実践している職員の声を伝える機会を持つ。
F. 事業所の防災・災害対策	地域の方の避難訓練への参加を調整し、実際の避難時を想定した動きを実施する。地域の方の意見を確認し、避難方法の見直しに繋げる。	地域の皆様より避難訓練に参加していただくことで、職員からでは見えない視点からのご意見を頂くことが出来ました。 今年度よりインカムの導入も開始されました。使用方法について職員自身も不慣れな部分も多々ありますので、災害時にも活用できるような使用方法を検討していきたいと思います。	今年は千手地区の防災訓練に参加しましたか。 サポートセンター合同の防災訓練の結果を会議の場で、インカムの活用状況などを聞かせていただけるとありがたい。 能登半島地震時、単身利用者の安否確認訪問の対応を知り、本当に心強く思いました。 インカムを使用することで安否確認や災害対応がよりスムーズにできると思いました。	地域の方よりサポートセンターの避難訓練への参加をしていただく。 普段よりセンター内に馴染みが無い方が避難支援を行う際の注意点を確認し、動きやすい方法を検討する。